

関西学院大学、青山学院大学、明治大学、UNHCR 駐日事務所、共催シンポジウム

# 難民が社会を変える

～大学、企業、行政などの果たすべき役割～



難民を対象とする推薦入学制度を導入してきた大学と UNHCR が難民支援の現状と課題を振り返り、企業、行政関係者らとの議論を通してさらなる支援を考える。

■日時：2011年3月12日(土) 13時～15時30分

■場所：青山学院大学 青山キャンパス 総合研究所ビルディング12階大会議室  
(東京都渋谷区渋谷4-4-25 地下鉄「表参道駅」B1出口より徒歩約5分)

■主催：関西学院大学、青山学院大学、明治大学、国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所

■申し込み：不要、無料、一般参加可能

■問い合わせ：青山学院大学学長室 (03-3409-9612)

## <プログラム> 13時～

主催者代表挨拶 伊藤 定良・青山学院大学学長

開会の辞 浅野 考平・関西学院大学副学長、針谷 敏夫・明治大学副学長

一部 基調講演 13時15分～ 中川 正春 衆議院議員 (元文部科学副大臣)

二部 パネルディスカッション 13時45分～15時30分

モデレーター：土井 香苗・ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表

パネリスト：針谷 敏夫・明治大学副学長、塚本 俊也・青山学院大学大学院国際政治経済学研究科プロジェクト教授、ミヨウ・関西学院大学難民学生第1期生ほか、大学、企業、行政、難民支援に携わるNGO関係者など

◆セッション1「高等教育機関における難民支援」13時45分～

◆セッション2「難民が社会で活躍するために」14時30分～ (※パネリストは裏面参照ください)

閉会の辞 (総括) ヨハン・セルス UNHCR駐日代表

写真提供：UNHCR

## (登壇者プロフィール)

### 基調講演

#### 中川 正春 衆議院議員(元文部科学副大臣)

米国ジョージタウン大学国際関係学科卒業。国際交流基金職員、三重県議会議員(3期)を務める。第41回衆議院選挙において当選、現在5期目。鳩山内閣の文部科学副大臣に就任。現在、衆議院予算委員会筆頭理事および民主党外交・安全保障調査会長を務める。

### モデレーター

#### 土井 香苗 ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表

司法試験に合格後、大学4年生の時、NGOピースボートのボランティアとして、アフリカのエリトリア法務省で法律作りのお手伝いのボランティア。東京大学法学部卒。弁護士。普段の業務の傍ら、日本にいる難民の法的支援や難民認定法の改正のロビーイングやキャンペーンにかかわる。米国ニューヨーク大学ロースクール修士課程終了(国際法)。米国ニューヨーク州弁護士。国際NGOヒューマン・ライツ・ウォッチのニューヨーク本部のフェロー、2008年から日本代表。

### メインパネリスト

#### 塚本 俊也 青山学院大学大学院国際政治経済学研究科グローバル・エキスパート・プログラム(GLEP)担当教授

ルワンダ、コンゴ、東ティモール、アフガニスタンなどで難民支援、復興開発支援、阪神大震災をはじめ、サハリン、台湾、インド西部地震などの緊急復興支援などに取り組む。タイ国立マヒドン大学大学院健康社会科学修士課程修了、インドネシア大学大学院社会学部紛争解決学博士課程後期修了。東京外国語大学大学院平和構築・紛争予防学講座客員教授、2010年より、青山学院大学大学院のGLEP(Global Expert Program)担当教授。専門は、公衆衛生、感染症対策、平和構築、危機管理など。

#### 針谷 敏夫 明治大学副学長

東京大学農学部卒業、同大学院博士課程修了。京都大学講師、カリフォルニア大学サンタクルツ校客員研究員などを経て、1990年より明治大学勤務。2006年から副学長に就任、難民推薦入学制度導入に尽力する。

#### ミヨウ 関西学院大学総合政策学部4年生

難民推薦入学制度を利用した難民学生第一期生。ミャンマー難民。大学やNGOなどで難民支援を訴える講演を多数実施。将来も難民支援に携わる活動がしたいと考えている。

### セッション1 パネリスト

#### 志垣 宣枝 青山学院大学大学院国際政治経済学研究科1年生

米国・ハートフォード大学にて、美術歴史専攻BFA取得。グラフィック・デザイン専攻MFAをボストン大学院にて取得。2010年夏、青山学院大学大学院国際政治経済学研究科GLEPのインターンシップでタイの難民キャンプへ赴き、人道支援のプロジェクトに携わる。

#### 柴田 真里那 関西学院大学総合政策学部4年生

難民支援学生団体「J・FUNユース関西」の代表。同団体は全国の大学生で構成され、定期的に難民についての勉強会を開く傍ら、大学内外で難民支援イベントを実施している。

#### 岩崎 新 明治大学情報コミュニケーション学部4年生

国際NGOヒューマン・ライツ・ウォッチにてインターンシップを経験。2010年にビルマ難民の協力のもと、ビルマの写真展を明治大学と慶応義塾大学で実施。その後総選挙前のビルマやタイに行き、避難民約2万人が収容されたキャンプを訪問するなど、難民問題に取り組んでいる。

### セッション2 パネリスト

#### ゾーミントゥ アジア・パシフィック貿易会社社長

ミャンマー出身のロヒンギャ族。日本で条約難民として認定される。2008年に群馬県でリサイクル品取引の会社を設立し、リサイクル品貿易に携わる。在日ビルマロヒンギャ協会の代表でもあり、日本においてロヒンギャ族の難民への支援活動も行う。

#### 高橋 敬子 社会福祉法人さぼうと21事務局長

社会福祉法人さぼうと21の事務局長として、同団体の母体である「難民を助ける会」のインドシナ難民支援活動を引き継ぎ、難民をはじめ、中国帰国者など外国出身の方の自立支援活動をしている。法務省難民審査参与員も務める。

※企業、行政関係機関も参加予定。

### 総括

#### ヨハン・セルス 国連難民高等弁務官事務所駐日代表

UNHCR職員として、香港、イラク北部、トルコ東部、ブルガリア、スイス、エチオピア、アメリカなど世界各地で18年以上任務にあたり、2008年UNHCR駐日代表に就任。着任前は、ニューヨークにて、平和と安全担当のシニア・ポリシー・アドバイザーとして、スーダン、チャド、ソマリアに重点を置き、紛争後の復興計画と平和構築戦略を担った。元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏とアマルティア・セン氏が共同議長を務めた人間の安全保障委員会でプロジェクト・リーダーを務めた。ノートルダム大学国際関係学博士号取得。